

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500780		
法人名	医療法人 橋口整形外科医院		
事業所名	グループホーム 平の庄		
所在地	長崎県大村市宮小路1丁目291番地3		
自己評価作成日	令和 3年 1月 日	評価結果市町村受理日	令和3年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 3年 2月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム平の庄は、平成16年開設で、17年目になります。国道34号線沿いの住宅地にあり、ご家族の訪問にも便利なところ。目の前に小学校があるため、朝は子供たちの声が聞こえます。敷地の周りは地域の方々に無料で貸し出している畑が広がっています。敷地内に入っていくとレモンや梅、桜の木などがあり、緑に囲まれ芝生の庭もあります。天気の良い日はベンチに座ってみんなでおやつを食べて、歌をうたったりしてのんびり過ごしています。施設は平屋で、2ユニットが併設型につながっていて、中央の共有スペースでは両ユニット一緒に体操やレクリエーションを行っています。玄関から入ると広い空間はとても気持ち良く、共有スペースの窓を大きくとっているため、日差しが差し込む光でとても明るい雰囲気のある施設です。「その人らしく、ゆっくり、ゆったりと」を理念として職員一同日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時の理念「その人らしく、ゆっくり、ゆったりと」は「これまで頑張ってきた方々を敬う」という思いが込められており、16年を経て職員へ受け継がれ浸透している。広い敷地で十分なスペースがあり、敷地内一面に咲く草花に触れながら、ゆっくりと寛いで過ごすことが出来る環境である。両ユニット合同での支援は特長であり、入浴は特殊浴槽、普通浴槽を備え本人に合った入浴を支援している。また、食事は中央の厨房にて全員分を調理し提供しており、入居者は洗濯物のタオルを隣のユニットへ運ぶ手伝いの他、歩行訓練を兼ねて往来している。このように全職員が連携し、日常的にオープンな環境を築いていることは強みといえる。毎日、母体法人にFAXで状態を報告し医療連携を図る一方、かかりつけ医の継続にも柔軟に対応し、看取り支援では万全な体制を築いている。新型コロナ禍で面会できない中、毎月の便りで昨年と今年の写真を並べてコメントを付けて送り、元気な様子は家族の安心へと繋がっている。入居者を敬い、理念の具現化に真摯に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム平の庄 壱番館・貳番館共通
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしくゆっくりゆったりと」を玄関に掲示し、管理者と職員は、理念を共有し、何を大切に入居者様に向き合うか日々の中で話し合いや確認を行いながら理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関に理念と倫理綱領を掲げ、職員の意識を高めている。職員会議や日々の実践の中で、「その人らしく」支援することを確認している。理念の背景にある設立時の「これまで頑張ってきた方々を敬う」姿勢も浸透している。職員の穏やかな声掛けもあり、理念の具現化が確認できる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の回覧板の回覧や施設内の畑を無料で提供し、気軽に声をかけ合ったりして、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、回覧板が届いている。新型コロナ禍により保育園児の訪問やボランティアのギター演奏などが中止となる中、今年度は敬老会などの行事を職員のみで工夫を凝らし開催している。敷地内の畑を無料で地域住民に提供し、収穫した野菜が届くなど地域との繋がりを深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議での場での提供をしているが、地域の人々に向けて活かしきれていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の場では、入居者様やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見や提案などを引き出すことがなかなか出来ていない。	昨年度6回目から今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、書面会議で対応している。運営推進委員に文書等で報告・意見照会後、その結果を市へ提出している。市の職員から新型コロナ禍による気分転換の工夫を問われ、アイデアを記載しサービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議への参加、メールや電話での連絡が主になっている。連絡や報告が主で考え方や実態を知ってもらうなどの協力関係を積極的に行いきれていない。	行政から主にメール連絡で最新情報を得、運営における手続きや不明な点を問い合わせる等協力関係を築いている。介護相談員の受入れの他、今年度は新型コロナ禍により行政からオンライン研修の案内があり参加している。運営推進会議の案内と議事録などの提出は直接出向いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜21時～朝9時まで施錠しているが、日中は開放している。身体拘束に関しては、実態を把握しながら禁止の対象となる具体的な行為と照らし合いながらケアに努めている。	指針を整備し、身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月毎に開催している。職員研修計画に沿って“介護研修教材CD”等で、身体拘束のないケアについて学び、受講後は試験とレポートの提出を実施している。施設長は実践より事案を投げ掛け、職員自らが考える場を設け検討を重ねている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者の虐待防止関連法について学び、遵守に向けた取り組みや未然防止の取り組みに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ必要と考えられる方がいないため、活用できるような話し合いを設けたことがない。また、これらの制度について利用者、家族等に周知を図るところまでは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除したりする場合は、時間を確保し、契約内容の説明を丁寧に行うように努めている。入居者様の立場に立ち、将来のことを含めて入居後起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて説明し、同意を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に状態報告を行ったり、電話での報告も行うようにしている。ケアプランの報告では時間を確保してご家族の想いを聴くように努めている。	新型コロナ禍以前には、夏まつり、敬老会、クリスマス会に家族を招待し、入居者と楽しいひと時を過ごしていた。現在、面会が制限されている中、電話やショートメールで家族と連絡を取り合っている。誕生日プレゼントについて家族から意見が出て、手作りの写真立てに統一した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回第2土曜日にカンファレンスを行い、情報共有や職員の意見等を聞く場を設けて話を聞くように努めている。	物品の購入や修理に関しては、金額により施設長の裁量で決済できる仕組みがある。定期的に、施設長と職員の面談を実施し、要望や悩みを聞き取っている。行事の際は、会議で職員が何をしたいかを発表し、役割分担を決めており、積極的に運営に関わっていることがわかる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件を設け、処遇改善加算の活用や、運営者は頻繁に現場に来るなどして、施設長からの報告や現場で起きている状況や変化を知り、職員の努力や成果について把握し、声をかけるなどの対応をするよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回第2土曜日にカンファレンス時に研修を年間計画をの中で行うように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、事例発表会などを聞いて、同業者との関わりを持つように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を行い、家族やご本人からも話を伺うよう努めている。情報収集に関してはご本人の生活歴や趣味なども含めて伺い、安定した生活サイクルを送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やケアプランの作成時に時間を確保し、話を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話に耳を傾けて、他のサービス利用も含めて選択出来るような説明に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態に合わせてケアを調整するように努めている。本人の生活歴を理解し話に耳を傾けたり一緒に話をしたり環境を作ることに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「施設に預けたから」という気持ちにならないようにご家族がご本人の支援をいつでも出来るような雰囲気や環境を作ることに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問されて来られる方は一緒に過ごせるように場を作るようにしている。ご家族に相談し馴染の美容室や今まで信仰してきた宗教の方の訪問など家と同じように出来るように支援している。	新聞を購読している入居者がいる他、行きつけの美容室へ出掛ける入居者に付き添っている。牧師の訪問もあり、入居前の生活が継続できるよう支援を行っていることが確認できる。新型コロナ禍の中、家族との面会は、玄関先や窓越しに行っている。また入居者の1年前と現在の写真を並べて家族へ送り、家族の安心に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく食卓にて過ごしていただき入居者様同士会話が出来るように努めたり、トラブルがある場合は食卓の定位置を変えたりなど共同生活を楽しく過ごせるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退去された方へはお見舞いやご家族様に様子を伺うようにしている。亡くなられた方へはお葬式に参列したり、初盆やその後の様子を気がけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身で意思を伝えられる方は日々の関わりの中から、伝えられない方は様子観察を行いながら小さな変化に気づくよう努めている。	職員は、居室で入居者と1対1になる際に、思いや意向を聞き取っており、申し送りノートや口頭で共有を図っている。外出したいという思いを持つ入居者には、一緒に散歩に出かける等、寄り添った支援を行っている。把握した内容によっては、介護計画に反映するケースもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に用紙に記入をお願いし、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子をサービス実施記録、日誌、日報に記録したりスタッフ間で気づきを口頭伝達したりしながら心身状態、生活リズムを把握するようにしている。また、出来る事はお願いしたりアプローチを工夫し力を発揮できるよう促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりを通して生活するうえで困っていることが無いかな尋ねている。またご家族様からの話し、状態の報告、受診時の主治医の意見・指示から介護計画を作成している。	入居時、家族に「バックグラウンド・大切にしていること」を記入してもらい、事業所では「入居者情報書」を聞き取りにて作成している。それを基に、現状の課題を1点に絞り、1ヶ月の暫定プランを立てている。家族の希望は面会時や電話で聞き取り、介護計画書に同意を得ている。月1回カンファレンスを開き、入居者の現状把握に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス実施記録、日誌、日報、申し送りノートを用いてスタッフ間で情報共有しながら日々の援助や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ間で情報・意見交換を行いながらご本人様にとって今どうしたらいいのか、何が最善かをその都度試行錯誤しながら対応している。またご家族様の面会時には様子をお伝えしたり相談したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様のご協力を得ながらご近所付き合いや同級生との交流などを楽しむことが出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望でかかりつけ医を選択していただいている。夜間や休日に適切な医療提供が受けれる体制やご本人様やご家族様の受診の負担が軽減するような提案を行っている。	夜間や休日対応、往診も可能な希望のかかりつけ医を継続できるよう支援している。受診時は基本的に家族が同行し、受診結果を記録している。その他の入居者は母体法人の医療機関をかかりつけ医としており、毎日医師・看護師にFAXにて体調を報告し、週1回看護師が訪問しており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の情報や気づきを記入し連携医師・看護師にFAXにて情報提供している。1週間に1度は日誌や日報を確認していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーの提供やスタッフの同行にてスムーズに入院できるように努めている。退院の際は看護サマリーやご家族様の情報、また場合によってはご家族様同意のもと医師の説明に同席させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針について説明し同意の有無を共有している。主治医から説明もしてもらいその都度家族と話し合いながら支援している。	母体医療法人と連携を図り、看取り支援に努めている。入居時、家族に看取りについて指針を説明し、重度化した際は医師を交えた意向の再聴取や説明により、家族の同意を得て支援に取り組んでいる。職員研修計画に沿って“介護研修教材CD”等で、看取りケアについて学ぶ機会を設けながら、理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。急変時は管理者や看護師に報告し主治医に指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回消防訓練を実施している。入居者様、ご家族様にも参加してもらい実施。またチェック表を作成し日々点検に努めている。	年2回総合避難訓練を夜間想定で実施しており、内1回は消防署が立会っている。訓練後の成果及び所見を職員間で共有している。自然災害マニュアルを整備し、前回の課題を基に情報収集を行い防災計画を作成している。ただし、備蓄として、オムツと井戸水の備えはあるものの、飲料水や食料の備えが十分ではない。	リスクマネジメントの観点から、自然災害対策として、万全な備蓄の整備を図ることが待たれる。検討、取組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居様が笑顔になれるような言葉がけを心掛けている。言葉遣いにも日頃から気をつけ対応している。	入居者の書類は、鍵付きのキャビネットに保管している。お便り等に使用する写真の掲載には、入居時に同意書を得ている。ただし、職員の守秘義務の誓約書は、全員分揃っていない。また、トイレにパッドが見える状態で置いている他、居室のドアの小窓が透明であるため、プライバシーの確保について検討の余地がある。	職員の守秘義務は、全員が認識すべき事項であるので、書類の整備に期待したい。トイレのパッドや居室にいる入居者のプライバシーについて、職員で検討し取り組むことが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	よく聞こえるように耳元で本人が理解できるよう話し働きかける。本人が思いや希望を表せるように傾聴する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々で自室で過ごしたりお風呂上りに横になったりして疲れを回復できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時おしぼりで顔を拭いたりお風呂上りに着る服を上下コーディネートして選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はご入居者と一緒に食事して楽しむようにしている。時折ご入居者様にお茶碗等を拭いていただいている。	調理担当職員2名を配し、鮮魚を使っのメニューを多く取り入れている他、入居者のリクエストに答えて献立を立てることもある。きざみ、とろみ、ゼリー食にも対応している。正月は、一人ひとりのおせち、お屠蘇で祝い、敬老の日の手作り手毬寿司やクリスマスのケーキ等、行事食を大切に、食事が楽しみとなるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食はお粥、軟飯、ペースト、副菜は一口大、キザミ、ペースト等その人に合った形状で提供している。またとろみを付け咽を予防して飲み込みやすくしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し夜間のみ義歯の洗浄を実施している。口の中に汚れが残らないよう必要に合わせたケア用品を使用して清潔保持している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はリハビリパンツや布パンツで過ごしてもらいトイレで排泄してもらうようにしている。夜間はオムツやリハビリパンツでトイレも使用し自立を促している。	基本的に、日中はトイレでの排泄を基本としており、オムツやポータブルトイレの使用は、夜間のみとしている。トイレの訴えが少ない人は、チェック表を参考にし、定期的に声掛けを行っている。布パンツの入居者もあり、自立に向けた支援を行っていることが見てとれる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為、起床時にオリゴ糖入り牛乳を提供。食物繊維の摂取に朝食時の主食にマンナンを投入している。便秘の方は主治医の指示のもと便秘薬の使用・調整をして便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽に安全に入浴していただけるように特殊浴槽を導入。シャワー浴のみでの入浴しできなかった方も浴槽でゆっくり楽しんでいただけるよう支援している。	週6日、風呂を沸かしている。介護度が高い入居者であっても、浴槽に浸ることができるよう数年前に特殊浴槽を導入しており、入浴日は、両ユニットの職員の協力して支援している。入浴日以外では、ホットタオルでの清拭の他、保湿剤の品質にも拘っており、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動して夜良眠していただけるように午前中予防体操やレクリエーションに参加していただいている。1時間程度の休息も本人の希望により行う。温度・湿度の管理も行い環境も整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳の活用や受診報告書を利用し把握に努めている。薬局をなるべく同じところをお願いし一包装や名前・日付の印字をお願いしている。また疑問等はすぐに薬剤師に質問するようにしている。1週間毎の薬BOXを利用しミス防止にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル・茶碗を拭くなど生活の中で役割を持って頂けるよう声掛けをし出来る方をお願いしている。楽しみを持って頂けるよう歌のCDやDVDを流して音楽を聴く、歌う環境を作っている。またことわざや漢字ドリルを提供し一緒に解いたり頭の体操をしたりして楽しんで頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と相談して美容室や外食、自宅へ帰る等の外出の支援に努めている。近所の夏祭りにご家族様や職員の付き添いで参加し買い物をしたりゲームに参加したり写真を撮るなどして思い出作りにも努めている。	新型コロナ禍で、外出が制限されている状況であるが、天気の良い日は、玄関横のベンチコーナーに座って日向ぼっこしたり、庭の梅や桜を鑑賞して楽しめるよう支援している。事業所の周辺は、平地であり、散歩に出掛けることもある。病院受診の日には帰り道にドライブして外気に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の所持分については、おこずかいといて施設が管理している。その中から、お買い物できる機会をつくりスタッフ又はご家族の付き添いのもと購入する機会をなるべく作るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物等が届いた際は電話をしてお話が出るように支援している。ご本人様の携帯電話を使用して曜日を決めてご家族様に電話やメールをして近況報告ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をしたり生け花を飾ったりして生活感がでるよう心掛けている。	両ユニットが共有する広いリビングには、ピアノやソファが並び、音楽や体操、行事を催している。畳の間の雛飾りや生け花からは季節を感じることが出来る。広い敷地により、玄関前ではベンチが並び憩いの場があり、庭の畑一面には野菜、草花を植えている。職員は、毎日の清掃や空調管理、天窓の採光調節など環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い空間がある為館内を散歩したりソファで休んだりDVD視聴をしたり個々の好きなように過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っているものや思い出の写真などをご家族様に持ってきていただき各々過ごしやすい空間作りをしている。	使い慣れたタンスや椅子、テレビなど制限なく持ち込んでいる。家族の協力を得て、家族写真や季節の飾り、カトリックの祭壇などを自由に配置している他、家族が描いた似顔絵の色紙を飾るなど個性豊かな空間を作っている。新聞、化粧水などこれまでの暮らしを継続する様子も窺える。職員は清掃や寝具の管理など清潔保持に徹している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や標識を設置し見た目でも分かりやすいようにしている。またスケジュール表を見ながら1日の流れに沿って生活が送れるように支援している。		